

# ナイジェリア

2021年12月15日

海外調査部・ラゴス事務所

2020年のナイジェリアの実質GDP成長率は、前年を大きく下回るマイナス1.9%となった。原油価格の下落と国際的な石油需要減退の影響を受け、石油・ガスの輸出が大きく減少し、輸出総額は前年比34.8%減となった。輸入は特にワクチンが増加し、前年比17.3%増となった。その結果、2016年以来となる貿易赤字となった。対内投資額は大幅減となったほか、原油輸出額の減少も影響し外貨準備高も減少を続けている。ナイジェリア中央銀行が市中への外貨供給量を制限したことで通貨ナイラは下落を続け、公認両替商では1ドル=約500ナイラで取引されている。厳しい状況下でもスタートアップの存在感は高まっており、特にフィンテックで大規模な買収や資金調達が多くみられた。

## ■新型コロナ禍でも情報通信セクターは成長を加速

ナイジェリア国家統計局によると、2020年の実質GDP成長率はマイナス1.9%で、前年の2.3%から大きく減速した。油価下落や産油量減少によって鉱業セクターが2020年第2四半期以降マイナス成長に転じたことや、ロックダウンの影響で卸・小売セクターが通年で8.5%減少するなど、新型コロナの蔓延が経済に大きな打撃を与えた。一方、新型コロナ禍においても、情報通信セクターは前年の9.2%増の成長をさらに上回る12.9%増となった。また、ロックダウン下でも経済活動を許可されていた農業セクターも年間を通じてプラス成長を維持した。

## ■鉱物性生産品の輸出は低調も、日本向けLNGは回復

ナイジェリア国家統計局によると、2020年の輸出額は前年比34.8%減の12兆5,227億ナイラとなった。一方、輸入額は19兆8,980億ナイラと17.3%増加し、2020年の貿易収支は164億176万ドルの貿易赤字に転落した。

輸出品目別では、最大の輸出品目である原油が、原油価格の下落と石油需要減退を受け、9兆4,507億ナイラと前年比35.7%減と大きく減少した。次いで輸送機器・同関連品も8,420億ナイラで、前年比27.6%減だった。このうち4,269億ナイラがカメルーン向けの船舶関連製品だった。植物性生産品は1,899億ナイラで前年比22.3%増と大きく伸ばした。このうち1,078億ナイラはゴマが占めており、中国、日本、トルコ、インドが主な仕向地だった。

輸出先国別では、前年と同様に、原油の主要輸出先であるインド、スペイン、オランダが上位3カ国を占めた。

一方、輸入品目別では、機械・電気機器・同関連品が最大で5兆944億ナイラだった。次に多かったのはガソリンを含む鉱物性生産品で、前年比15.8%増の3兆1,488億ナイラだった。化学工業製品は

93.1%増の2兆6,803億ナイラを記録し、うち人用のワクチンが4,819億ナイラを占めた。輸送機器・同関連品の輸入は5.2%減の2兆2,291億ナイラで、このうち中古車が9,711億ナイラ、うち6,892億ナイラが米国からだった。二輪車の輸入額は4,391億ナイラで、うちインドから3,037億ナイラ、中国からが1,312億ナイラだった。

輸入元国別では、中国が最大で5兆7,221億ナイラ、米国が1兆8,023億ナイラ、インドが1兆5,802億ナイラと続いた。

表1 ナイジェリアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万ナイラ, %)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2019年	2020年				2019年	2020年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
鉱物性生産品	16,729,112	11,120,986	88.8	△ 33.5	機械・電気機器・同関連品	4,541,153	5,094,353	25.6	12.2
原油	14,690,021	9,450,709	75.5	△ 35.7	鉱物性生産品	2,718,830	3,148,815	15.8	15.8
液化天然ガス	1,787,360	1,407,197	11.2	△ 21.3	化学工業製品	1,388,031	2,680,307	13.5	93.1
プロパン	22,950	29,428	0.2	28.2	輸送機器・同関連品	2,351,983	2,229,144	11.2	△ 5.2
ブタン	20,727	7,371	0.1	△ 64.4	植物性生産品	586,628	1,081,569	5.4	84.4
輸送機器・同関連品	1,163,598	841,997	6.7	△ 27.6	卑金属・同製品	784,974	1,032,864	5.2	31.6
植物性生産品	155,244	189,916	1.5	22.3	プラスチック・ゴム製品	695,205	1,020,090	5.1	46.7
加工食品・飲料品	174,257	169,269	1.4	△ 2.9	加工食品・飲料品	676,364	991,380	5.0	46.6
化学工業製品	67,759	78,969	0.6	16.5	動物性生産品	421,670	791,779	4.0	87.8
卑金属・同製品	805,330	35,617	0.3	△ 95.6	木材パルプ・同製品	491,109	447,701	2.2	△ 8.8
プラスチック・ゴム製品	31,543	10,604	0.1	△ 66.4	精密機器・同関連品	1,207,569	439,987	2.2	△ 63.6
合計 (その他含む)	19,192,234	12,522,684	100.0	△ 34.8	合計 (その他含む)	16,959,875	19,898,027	100.0	17.3

[出所] ナイジェリア国家統計局

財務省貿易統計によると、日本の輸入は、前年比35.2%増の6億9,020万ドルだった。最も輸入額の大きい液化天然ガスは61.4%増だった。日本からの輸出は前年比27.2%減の2億8,518万ドルだった。このうち輸送用機器が全体の28.6%を占めた。

表2 日本の対ナイジェリア主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 1,000ドル, %)

	輸入 (CIF)					輸出 (FOB)			
	2019年	2020年				2019年	2020年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
液化天然ガス	298,390	481,583	69.8	61.4	輸送用機器	86016	81,492	28.6	△ 5.3
原料品	110,829	122,101	17.7	10.2	自動車	55165	51,879	18.2	△ 6.0
非鉄金属	100,319	72,032	10.4	△ 28.2	乗用車	16606	17,560	6.2	5.7
揮発油	0	10,813	1.6	全増	バス・トラック	27778	22,884	8.0	△ 17.6
非金属鉱物製品	27	1,805	0.3	6,585.2	自動車の部分品	18562	20,959	7.3	12.9
衣類・同付属品	0	855	0.1	全増	二輪自動車	8239	7,088	2.5	△ 14.0
食料品	646	393	0.1	△ 39.2	原料別製品	62248	64,109	22.5	3.0
魚介類	386	123	0.0	△ 68.1	鉄鋼	41822	52,150	18.3	24.7
野菜	59	14	0.0	△ 76.3	ゴム製品	14689	7,499	2.6	△ 48.9
					原料品	44325	38,710	13.6	△ 12.7
					一般機械	98678	35,246	12.4	△ 64.3
					化学製品	28182	30,118	10.6	6.9
					医薬品	12122	20,758	7.3	71.2
					食料品	53848	18,540	6.5	△ 65.6
合計 (その他含む)	510487	690,200	100	35.2	合計 (その他含む)	391980	285,181	100	△ 27.2

[出所] 財務省貿易統計

## ■外貨不足とナイラ下落で物価が急上昇

2020年の対内投資額 (直接投資、ポートフォリオ投資、その他投資含む) は96億8,000万ドルで、前年比マイナス59.6%を記録した。投資額のうち金融セクター (銀行、ファイナンス、株式投資) が全体の77.5%を占めた。なお、対内直接投資額は10億2,900万ドルで、10.1%増となった。

2020年4月末に335億2,000万ドルと低迷していた外貨準備高は、IMFによる34億ドルの緊急融資によって同年5月末には365億7,000万ドルまで回復した。しかし、新型コロナ禍で原油需要が減退したことで、外貨準備高も減少を続けている。2021年6月末時点で333億2,000万ドルとなっている。ナイジェリアの主な外貨獲得手段は原油輸出のため、これまで外貨準備高は油価と連動してきた。しか

し、2020年6月のOPECプラスとの合意に基づき産油量を減らした結果、油価は回復したものの、外貨準備高は減少を続けている。なお、ナイジェリアの原油輸出量は日量平均1.56メガバレル（2019年）から1.31メガバレル（2020年）に減少している。昨今の原油高が、政府が価格抑制のため投入している輸入ガソリンへの燃料補助金を吊り上げていることも、外貨不足に拍車をかけている。

厳しい外貨準備高の現況を踏まえ、ナイジェリア中央銀行（CBN）は、貿易決済用に設けたNAFEX（自律的外為市場）レートによる外貨割当を厳しく制限した。その結果、多くの製造業者や輸入業者が海外の取引先へ代金を支払えない事態が慢性化している。CBNは2020年8月に公定レートを1ドル=380ナイラに切り下げ、さらに2021年5月にはNAFEXレートに統一したことで、公定レートは2021年7月現在1ドル=410ナイラ前後で推移している。公定レートの実質切り下げに反発する形で、認定両替商（Bureau De Change: BDC）の為替レートも1ドル=470ナイラから同500ナイラへと下落した。

こうした事情から、消費活動の多くを輸入品に頼るナイジェリアでは物価上昇が顕著だ。国家統計局によると、2021年5月の物価上昇率は17.9%だが、食品に限ると22.8%とさらに著しく、一般市民の暮らしへの影響は大きい。

こうした場合、消費活動の多くを輸入品に頼るナイジェリアでは物価上昇が顕著だ。国家統計局によると、2021年5月の物価上昇率は17.9%だが、食品に限ると22.8%とさらに著しく、一般市民の暮らしへの影響は大きい。

## ■注目を集めるフィンテック

厳しい状況下においても、スタートアップ業界はかつてない活況を呈している。とりわけフィンテックの成長は目覚ましく、米ストライプは決済プラットフォームのペイスタックを2億ドル超で買収（2020年10月）したほか、同じく決済サービスを展開するフラッターウェーブの1億7,000万ドル調達（2021年5月）は大きな話題となった。2021年6月に発行された、スタートアップブリンクの「グローバル・スタートアップ・エコシステム・インデックス2021」の都市ランキングにおいて、ラゴスは122位でアフリカトップとなった。日系ベンチャーキャピタル（VC）も存在感を示している。2019年よりラゴスに拠点を設立し活動しているケップルアフリカベンチャーズは、2021年7月までにナイジェリア企業37社に投資した。2020年12月にはAsia Africa Investment & Consulting（AAIC）がラゴスに現地法人を設立、医療分野を中心に国内の6社に出資している。

在ナイジェリア日系企業の動きとしては、伊藤忠商事が日本人駐在員のポストを設置した。2021年10月現在、メーカー3社、商社7社、VCファンド2社が日本人駐在員を置いて活動している。プラント建設大手の日揮は、地場民間企業のUTMオフショアから国内初となるフローティングLNGプラントの概念設計役務を受注した。2021年10月に納品を完了する。

国内外の企業動向としては、国内最大手の財閥であるダンゴテグループが、2021年6月に年間生産キャパシティが300万トンとなる肥料プラントを稼働し、将来的には米国やブラジルにも輸出する予

表3 ナイジェリアの業種別対内投資額<フロー>

(単位: 100万ドル、%)

	2019年	2020年		
	金額	金額	構成比	伸び率
銀行	7,658	3,751	38.7	△ 51.0
ファイナンス	5,268	1,895	19.6	△ 64.0
株式投資	5,335	1,852	19.1	△ 65.3
製造業	1,297	914	9.4	△ 29.6
通信	944	417	4.3	△ 55.8
農業	490	325	3.4	△ 33.7
流通	535	288	3.0	△ 46.1
サービス	914	68	0.7	△ 92.5
石油・ガス	196	54	0.6	△ 72.6
醸造	26	30	0.3	16.0
ITサービス	75	22	0.2	△ 71.0
建設	30	22	0.2	△ 27.4
運輸	11	19	0.2	77.0
漁業	65	7	0.1	△ 89.6
電力	49	13	0.1	△ 74.3
コンサルティング	5	3	0.0	△ 41.3
マーケティング	15	2	0.0	△ 88.6
ホテル	28	0	0.0	全減
合計 (その他含む)	23,990	9,680	100	△ 59.6

[注] 直接投資、ポートフォリオ投資、その他投資含む。

[出所] ナイジェリア国家統計局

定である。同プラントは新型コロナ禍のロックダウン中にも例外的に建設許可が与えられるなど、農業改革に重点的に取り組む政府の姿勢がみて取れる。石油化学大手のインドラマ・エレメ・ペトロケミカル・リミテッドも、肥料プラントを含むインフラプロジェクトに今後60億ドルを追加投資すると発表している。また、南ア系大手情報通信企業のMTNは、今後3年間で14億ドル以上を投資しネットワーク拡充を図ると発表している。

## 主要経済指標

	2018年	2019年	2020年
①人口：2億614万人（2020年）			
②面積：92万3,769km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：2,083米ドル（2020年）			
④実質GDP成長率（%）	1.9	2.3	△ 1.9
⑤消費者物価上昇率（%）	12.1	11.4	13.2
⑥失業率（%）	22.6	n.a.	33.3
⑦貿易収支（100万米ドル）	20,467	2,868	△ 16,402
⑧経常収支（100万米ドル）	6,261	△ 14,627	△ 16,976
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	42,839	38,336	36,730
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	25,274	27,676	33,348
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ナイラ、期中平均）	306.1	306.9	358.8

〔注〕①③：推計値、⑦⑧：暫定値、⑦：国際収支ベース（財のみ）  
〔出所〕①：世界銀行、③⑥⑨⑪：IMF、②④⑤：ナイジェリア国家統計局、⑦⑧：ナイジェリア中央銀行、⑩：ナイジェリア債務管理局

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp